

2015年7月
No.15-104a(全)※1

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内いたしますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

■新規受託項目

項目コード	-
検査項目名	呼吸器感染ウイルスマルチスクリーニング*
検体量/容器	咽頭・鼻咽頭ぬぐい液 [容器:55] または 気管支洗浄液 3.0mL[容器:55] または 喀痰 1.0mL [容器:55]
保存条件	凍結(-20°C以下)
検査方法	マルチプレックス PCR-rSSO 法
基準値	検出せず
所要日数	4~11日
検査実施料	未収載
備考	※検出が可能なウイルス遺伝子は裏面別表をご参照下さい。
検査場所	LSI メディエンス (→1)

■受託開始日

●2015年7月2日(木)

以上

呼吸器感染ウイルスマルチスクリーニング

呼吸器感染症はしばしば乳幼児や児童、高齢者を中心に重篤な症状をもたらし、中でも肺炎は2013年人口動態統計では、死亡者数が122,000人を超え、悪性新生物、心疾患について3位に位置付けられています。

呼吸器感染症を引き起こす病原体には主にウイルス、細菌、真菌などがあります。なかでも主要なウイルス性呼吸器感染症の原因となるインフルエンザは毎年変異を繰り返すため、ワクチンの有効性にも限界があり、また他の呼吸器感染症を引き起こすウイルスであるアデノやコロナウイルスなどではワクチンも存在せず、特異的な治療法もありません。

さらに、細菌や真菌は病原体を培養することにより同定が可能ですが、ウイルスは感受性のある生物培地でのみ培養可能であり、一部ではPCR法やPOCT試薬も存在しますが、起因病原体の検索は困難といわざるを得ません。

「呼吸器感染ウイルスマルチスクリーニング」は、呼吸器感染症の原因となる17種類のウイルスタイプ/サブタイプの遺伝子を「マルチプレックスPCR-rSSO法」を用い同時に且つ網羅的に検出する検査です。

呼吸器感染性ウイルスは若年・老年を問わず全世代で感染し、前述のように高齢者や乳幼児、児童では重篤になる可能性があるため、早期の感染診断や管理・治療介入が必要であり、感染の拡大防止などの対応が必要になります。

国立感染症研究所が発表する「病原微生物検出情報」では様々な呼吸器感染性ウイルスの検出状況が報告されていますが、本検査では2014年に検出されたウイルスの95%以上をカバーすることが可能です。2009年にアウトブレイクした新型インフルエンザや高頻度で多重感染を起こすコロナウイルス、大多数の乳幼児に感染すると言われているRSVなど17種類の呼吸器感染ウイルスを同時に検出することができます。

弊社では、類似呼吸器症状を呈する複数のウイルスを1度に検出可能な研究検査の受託を開始いたします。

■検出が可能なウイルス遺伝子

ウイルス	タイプ / サブタイプ
インフルエンザウイルス	A型:AH1(H1N1 2009を含む), AH3 B型:B
RSウイルス	
パラインフルエンザウイルス	PIV1, PIV2, PIV3, PIV4
コロナウイルス	229E, OC43, NL63, HKU1
アデノウイルス	
ヒトメタニユーモウイルス	
エンテロ / ライノウイルス	
ヒトボカウイルス	